

令和6年度決算概要について

令和6年度決算の概要を取りまとめましたので、お知らせします。

1 令和6年度決算概要

(1) 令和6年度決算のポイント

ア 一般会計の規模

歳出総額は5,256億7,700万円となり、対前年比で231億9,400万円、4.6%の増、令和2年度に次いで過去2番目の規模となった。

歳入総額	5,294億7,000万円
	(対前年度比 +231億8,700万円、+4.6%)
歳出総額	5,256億7,700万円
	(対前年度比 +231億9,400万円、+4.6%)

イ 実質収支の確保

一般会計では、歳入において、市税や地方消費税交付金が予算に比べ増収となったこと、また、歳出において、効率的な予算執行に努めたことにより、29億8,200万円の実質収支を確保。

(令和5年度：28億5,100万円)

ウ 財政の健全性の維持

全会計市債残高は対前年度比37億円の減で9,530億円となるとともに、基金借入金残高を着実に削減し、対前年度比10億円の減で147億円となるなど、「千葉市中期財政運営方針」を踏まえた財政運営に努めた。

なお、財政調整基金残高は対前年度比50億円の減で99億円となった。

表1 市債残高(全会計)の推移

(単位：億円)

区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
年 度 末 残 高	9,701	9,626	9,718	9,567	9,530
対前年度増減額	△31	△75	92	△151	△37

表2 基金借入金残高の推移

(単位：億円)

区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
基金借入金残高	237	197	177	157	147
対前年度増減額	△10	△40	△20	△20	△10

表3 財政調整基金残高の推移

(単位：億円)

区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
財政調整基金残高	128	190	170	149	99
対前年度増減額	39	62	△ 20	△ 21	△ 50

(2) 健全化判断比率等

ア 健全化判断比率

実質公債費比率及び将来負担比率については、いずれも対前年度比で低減。

実質公債費比率 10.4% (対前年度比△0.3P、早期健全化基準 25.0%)
 将来負担比率 120.1% (対前年度比△2.3P、早期健全化基準400.0%)

イ 資金不足比率

対象となる6会計でいずれも発生していない。